

令和 4 年度浜名湖外来植物等調査業務委託

報 告 書 (抜粋)

令和 5 年 1 月

株式会社自然環境リサーチ



図 1.1 業務対象地域位置図

1-5 業務工程

業務工程は、以下の通りである。

規格		単位	数量	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月
一般調査業務													
計画準備		回	1	■									
現地調査	植物分布調査	回	2		■				■				
	植生図作成調査	回	1				■						
考察・まとめ		式	1			■							
協議打合せ		回	2		○								○
現地調査速報		回	3			○		○		○			
成果品提出		式	1										○

(2) 外来植物の確認状況

本調査において、特定外来生物 2 種、生態系被害防止外来種 27 種が確認された。生態系被害防止外来種のうち総合対策外来種（総合的に対策が必要な外来種）は 22 種、産業管理外来種（適切な管理が必要な産業上重要な外来種）は 5 種であった。

総合対策外来種のうち緊急対策外来種は 2 種、重点対策外来種は 8 種、その他の総合対策外来種は 12 種であった。

外来植物の確認種一覧は表 3.4 に、位置状況は表 3.5～18 に示すとおりである。

表 3.4 外来植物の確認種一覧

No.	科名	種名		調査時期			特定外来生物	生態系被害防止外来種	
		和名	学名	5月	7月	9月			
1	ウリ科	アレチウリ	<i>Sicyos angulatus</i>		●	●	○	総合対策	緊急対策
2	キク科	ナルトサワギク	<i>Senecio madagascariensis</i>	●		●	○	総合対策	緊急対策
3	クサスギカズラ科	アツバキミガヨラン	<i>Yucca gloriosa</i>	●		●		総合対策	重点対策
4	イネ科	シナダレスズメガヤ	<i>Eragrostis curvula</i>	●		●		総合対策	重点対策
5	アカバナ科	コマツヨイグサ	<i>Oenothera laciniata</i>	●		●		総合対策	重点対策
6	ハマミズナ科	バクヤギク	<i>Carpobrotus edulis</i>	●		●		総合対策	重点対策
7	サボテン科	ウチワサボテン	<i>Opuntia ficus-indica</i>	●		●		総合対策	重点対策
8	クマツヅラ科	シチヘンゲ	<i>Lantana camara ssp. aculeata</i>	●		●		総合対策	重点対策
9	キク科	オオブタクサ	<i>Ambrosia trifida</i>			●		総合対策	重点対策
10		セイタカアワダチソウ	<i>Solidago altissima</i>	●		●		総合対策	重点対策
11	ユリ科	シンテツポウユリ	<i>Lilium x formolongo</i>	●		●		総合対策	その他
12	バラ科	トキワサンザシ	<i>Pyracantha coccinea</i>	●		●		総合対策	その他
13	トウダイグサ科	ナンキンハゼ	<i>Triadica sebifera</i>	●		●		総合対策	その他
14	アオイ科	フヨウ	<i>Hibiscus mutabilis</i>	●		●		総合対策	その他
15	タデ科	ナガバギシギシ	<i>Rumex crispus</i>	●		●		総合対策	その他
16	ナデシコ科	マンテマ	<i>Silene gallica var. quinquevulnera</i>	●				総合対策	その他
17	アカネ科	オオフタバムグラ	<i>Hexasepalum teres</i>	●		●		総合対策	その他
18	ヒルガオ科	アメリカネナシカズラ	<i>Cuscuta campestris</i>	●		●		総合対策	その他
19		ホシアサガオ	<i>Ipomoea triloba</i>			●		総合対策	その他
20	キク科	アメリカセンダングサ	<i>Bidens frondosa</i>			●		総合対策	その他
21		ケナシヒメムカシヨモギ	<i>Erigeron pusillus</i>			●		総合対策	その他
22		オオオナモミ	<i>Xanthium occidentale</i>	●		●		総合対策	その他
23	イネ科	ネズミホソムギ	<i>Lolium x hybridum</i>	●				産業管理	
24		ネズミムギ	<i>Lolium multiflorum</i>	●				産業管理	
25		ホソムギ	<i>Lolium perenne</i>	●				産業管理	
26		ホテイチク	<i>Phyllostachys aurea</i>	●		●		産業管理	
27		オニウシノケグサ	<i>Schedonorus phoenix</i>	●				産業管理	

表 3.5 特定外来生物の確認状況

種名：アレチウリ	(特定外来生物、総合対策外来種－緊急対策外来種)
確認箇所数：4 箇所	7 月に 3 箇所を確認し、全て広がらないようにつる切りしたところ、9 月には確認されなかった。9 月に確認した 1 箇所は、その場で引き抜き除去した。
	
 アレチウリ近景	 アレチウリ遠景

表 3.6 特定外来生物の確認状況

種名：ナルトサワギク	(特定外来生物、総合対策外来種－緊急対策外来種)
確認箇所数：23 箇所	主として北東部にまとまって生育している。



ナルトサワギク近景



ナルトサワギク遠景

特定外来生物 2 種の確認位置は図 3.4 に示すとおりである。



図 3.4 特定外来生物の位置状況

表 3.7 生態系被害防止外来種の確認状況

種名：アツバキミガヨラン	(総合対策外来種－重点対策外来種)
確認箇所数：4 箇所	西から中央にかけて点在し、大きく成長していた。
	
 アツバキミガヨラン	
種名：シナダレスズメガヤ	(総合対策外来種－重点対策外来種)
確認箇所数：13 箇所	西側とやや東側に点在し、一部群落として広がっていた。
	
 シナダレスズメガヤ	

表 3.8 生態系被害防止外来種の確認状況

種名：コマツヨイグサ	(総合対策外来種－重点対策外来種)
確認箇所数：多数	全域に分布し、東側の方が多い。
	
 コマツヨイグサ	
種名：バクヤギク	(総合対策外来種－重点対策外来種)
確認箇所数：2 箇所	一部箇所で定着していた。
	
 バクヤギク	

表 3.9 生態系被害防止外来種の確認状況

種名：ウチワサボテン	(総合対策外来種－重点対策外来種)
確認箇所数：1 箇所	1 箇所に 3 株が生育
	
 ウチワサボテン	
種名：シチヘンゲ	(総合対策外来種－重点対策外来種)
確認箇所数：15 箇所	中央よりやや西側で多く分布し、広がりを見せていた。
	
 シチヘンゲ	

表 3.10 生態系被害防止外来種の確認状況

種名：オオブタクサ	(総合対策外来種－重点対策外来種)
確認箇所数：1 箇所	まだ小型の個体を確認した。
	
 オオブタクサ	
種名：セイタカアワダチソウ	(総合対策外来種－重点対策外来種)
確認箇所数：9 箇所	西側の地域では群落として広がっていた。
	
 セイタカアワダチソウ	

表 3.11 生態系被害防止外来種の確認状況

種名：シンテッポウユリ	(総合対策外来種－その他の総合対策外来種)
確認箇所数：2 箇所	北側で 2 箇所ほど確認された。
	
 シンテッポウユリ	
種名：トキワサンザシ (ピラカンサ)	(総合対策外来種－その他の総合対策外来種)
確認箇所数：5 箇所	一部でまとまって分布していた。
	
 トキワサンザシ (ピラカンサ)	

表 3.12 生態系被害防止外来種の確認状況

種名：ナンキンハゼ	(総合対策外来種－緊急対策外来種)
確認箇所数：3 箇所	東側でまとまって分布していた。
	
 ナンキンハゼ	
種名：フヨウ	(総合対策外来種－その他の総合対策外来種)
確認箇所数：4 箇所	中央よりやや西側で広がりを見せていた。
	
 フヨウ	

表 3.13 生態系被害防止外来種の確認状況

種名：ナガバギシギシ	(総合対策外来種－その他の総合対策外来種)
確認箇所数：4 箇所	北岸に沿って連続的に分布していた。
	
 ナガバギシギシ	
種名：マンテマ	(総合対策外来種－その他の総合対策外来種)
確認箇所数：1 箇所	春に北側で確認されたが、夏秋では確認されなかった。
	
 マンテマ	

表 3.14 生態系被害防止外来種の確認状況

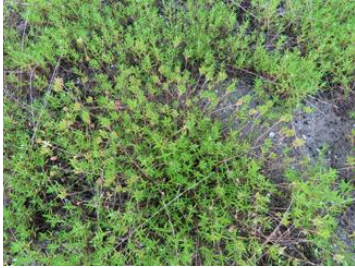
種名：オオフトバムグラ	(総合対策外来種－その他の総合対策外来種)
確認箇所数：最も多い	ほぼ全域にわたって広がりを見せていた。
	
 オオフトバムグラ	
種名：アメリカネナシカズラ	(総合対策外来種－その他の総合対策外来種)
確認箇所数：3 箇所	離れた 3 箇所で確認された。
	
 アメリカネナシカズラ	

表 3.15 生態系被害防止外来種の確認状況

種名：ホシアサガオ	(総合対策外来種－その他の総合対策外来種)
確認箇所数：2 箇所	離れた 2 箇所で確認された。まだ小規模であった。
	
 ホシアサガオ	
種名：アメリカセンダングサ	(総合対策外来種－その他の総合対策外来種)
確認箇所数：1 箇所	北側で確認された。
	
 アメリカセンダングサ 「日本の帰化植物」(2003 年 平凡社) より	

表 3.16 生態系被害防止外来種の確認状況

種名：ケナシヒメムカシヨモギ	(総合対策外来種－その他の総合対策外来種)
確認箇所数：1箇所	北側で確認された。
	
ケナシヒメムカシヨモギ 「日本の帰化植物」(2003年 平凡社)より	
種名：オオオナモミ	(総合対策外来種－その他の総合対策外来種)
確認箇所数：3箇所	離れた3箇所で確認された。
	
オオオナモミ	

表 3.17 生態系被害防止外来種の確認状況

種名：ドクムギ属 3 種 ネズミホソムギ、ネズミムギ、ホソムギ		(産業管理外来種) ドクムギ属 3 種は 1 種として取り扱われている。
確認箇所数：6 箇所	群落規模で各地に点在していた。	
		
		ネズミムギ
種名：ホテイチク	(産業管理外来種)	
確認箇所数：1 箇所	林内で以前に植栽されたものが確認された。	
		
		ホテイチク

表 3.18 生態系被害防止外来種の確認状況

種名：オニウシノケグサ	(産業管理外来種)
確認箇所数：1 箇所	西側の 1 箇所を確認された。
	
 オニウシノケグサ	

4. 外来植物除去対策案

4-1 外来植物除去対象種

外来植物の選定基準とした「我が国の生態系等に被害を及ぼすおそれのある外来種リスト」の選定理由と対策優先度の要件は以下に示す通りである。

選定理由

- I. 生態系被害のうち交雑が確認されている、またはその可能性が高い。
- II. 生物多様性の保全上重要な地域で問題になっている、またはその可能性が高い。
- III. 人体に重篤な被害を引き起こす、またはその可能性が高い。
- IV. 生態系被害のうち競合または改変の影響が大きく、かつ分布拡大・拡散の可能性も高い。
- V. 生態系被害のほか、人体や経済・産業へ幅広く被害を与えており、かつ分布拡大・拡散の可能性もある。

対策優先度の要件

- ①生態系に係る潜在的な影響・被害が特に甚大である。
- ②生物多様性保全上重要な地域に侵入・定着し被害をもたらす可能性が高い。
- ③絶滅危惧種等の生息・生育に甚大な被害を及ぼす可能性が高い。
- ④人の生命・身体や農林水産業等社会経済に対して甚大な被害を及ぼす。

本調査においてこの対象となる外来種は特定外来生物 2 種を含む 27 種であった。表 4.1 に示すように、このうち総合対策外来種（総合的に対策が必要な外来種）は 22 種、産業管理外来種（適切な管理が必要な産業上重要な外来種）は 5 種であった。産業管理外来種の対策優先度は総合対策外来種より下となるため、今回は対象外とした。

総合対策外来種の 22 種は防除対象となり、このうち緊急対策外来種は 2 種、重点対策外来種は 8 種、その他の総合対策外来種は 12 種である。最も優先的に除去対策を実施すべき種は、緊急対策外来種（＝特定外来生物）の 2 種で、次いで重点対策外来種の 8 種となる。

表 4.1 除去対象外来植物一覧

No.	科名	和名	特定外来生物	生態系被害防止 外来種		選定理由	対策優先度の要件	除去対象
1	ウリ科	アレチウリ	○	総合対策	緊急対策	Ⅳ、Ⅴ	①③④	○
2	キク科	ナルトサワギク	○	総合対策	緊急対策	Ⅳ、Ⅴ	①④	○
3	クサスギカズラ科	アツバキミガヨラン		総合対策	重点対策	Ⅱ、Ⅳ	①②③	○
4	イネ科	シナダレスズメガヤ		総合対策	重点対策	Ⅳ	①③	○
5	アカバナ科	コマツヨイグサ		総合対策	重点対策	Ⅱ、Ⅳ	①②③	○
6	ハマズナ科	バクヤギク		総合対策	重点対策	Ⅱ、Ⅳ	①②③	○
7	サイボテン科	ウチワサボテン		総合対策	重点対策	Ⅱ、Ⅳ	①②③	○
8	クマツヅラ科	シチヘンゲ		総合対策	重点対策	Ⅱ、Ⅳ	①②	○
9	キク科	オオブタクサ		総合対策	重点対策	Ⅳ	①③	○
10		セイタカアワダチソウ		総合対策	重点対策	Ⅱ、Ⅳ	①②③	○
11	ユリ科	シンテッポウユリ		総合対策	その他	Ⅰ	記載なし	○
12	バラ科	トキワサンザシ		総合対策	その他	Ⅳ		○
13	トウダイグサ科	ナンキンハゼ		総合対策	その他	Ⅳ		○
14	アオイ科	フヨウ		総合対策	その他	Ⅰ		○
15	タデ科	ナガバギシギシ		総合対策	その他	Ⅰ		○
16	ナデシコ科	マンテマ		総合対策	その他	Ⅳ		○
17	アカネ科	オオフタバムグラ		総合対策	その他	Ⅱ、Ⅳ		○
18	ヒルガオ科	アメリカネナシカズラ		総合対策	その他	Ⅳ		○
19		ホシアサガオ		総合対策	その他	Ⅳ、Ⅴ		○
20	キク科	アメリカセンダングサ		総合対策	その他	Ⅳ、Ⅴ		○
21		ケナシヒメムカシヨモギ		総合対策	その他	Ⅳ		○
22		オオオナモミ		総合対策	その他	Ⅰ、Ⅳ、Ⅴ		○
23	イネ科	ネズミホソムギ		産業管理		Ⅳ		
24		ネズミムギ		産業管理		Ⅳ		
25		ホソムギ		産業管理		Ⅳ		
26		ホテイアザ		産業管理		Ⅱ、Ⅳ、Ⅴ		
27		オニウシノケグサ		産業管理		Ⅱ、Ⅳ		

※産業管理外来種のネズミホソムギ、ネズミムギ、ホソムギの3種は同外来種リストではドクムギ属として1種で扱われている。

4-2 除去対象種の概要

除去対象の外来植物の概要は表 4.2～7 に示す通りである。

表 4.2 除去対象外来植物の概要

和名	特徴	影響	対策法
アレチウリ 	一年生草本。つる植物で茎に毛を密生する。花期は8～10月。果実に刺を密生し、大量の種子を生産する。	在来植物を駆逐する。埋土種子が次々と発芽し、広がりやすい。	結実前の抜き取りや刈り取り、表土の剥ぎ取り、覆土など。
ナルトサワギク 	多年生草本。花がきれい。で通年開花する。茎は多数分枝し大株となる。緑化の種子に混入し、分布を拡大した。	在来植物を駆逐する。アルカロイドを含み、草食動物に有害。	結実前の抜き取りや刈り取り、除草剤、他の植物による被陰効果、土壌改良など。
アツバキミガヨラン 	常緑低木。花期は6月。日本には花粉を運ぶユッカガがいいため、結実しない。茎の断片から発根し、地下部からも繁殖する。	海岸砂浜の在来植物を駆逐する。	地下部を含めて抜き取るか掘り取る。
シナダレスズメガヤ 	多年生草本。緑化植物。茎は束生し大きな株になる。花期は7～10月。種子生産量が多いが、埋土種子は形成せず、根茎で繁殖する。	在来種の生育適地を縮小する。河床の上昇や樹林化を引き起こす。	種子を生産する前に、抜き取りや掘り取り、表土の剥ぎ取り、地盤切り下げ、除草剤など。

表 4.3 除去対象外来植物の概要

和名	特徴	影響	対策法
コマツヨイグサ 	一年生～短命な多年生草本。茎は分枝して地表に広がる。花期は4～11月。自家受粉する。埋土種子を形成するが、種子は海水に浮かず、海流散布は困難とされる。	海岸砂浜の在来植物を駆逐する。	結実前に抜き取るか掘り取る。
バクヤギク 	多肉質の多年生草本。観賞用や薬用にされる。茎は分枝し、数年で木質化する。花期は5～11月。種子は哺乳類などに運ばれる。	海岸砂浜の在来植物を駆逐する。砂の移動をおさえ、有機物を堆積する。	地下茎を含めて抜き取りや掘り取り、除草剤、マット状のものは引き抜きながら丸めて除去する。
ウチワサボテン 	多肉質の多年生草本。観賞用や食用にされる。花期は4～10月。果実は液果で、種子は動物に運ばれる。茎節は再生しやすい。	海岸砂浜や河原の在来植物を駆逐する。刺で農業などの障害となる。	抜き取りや掘り取り、果実が成長する前に茎に除草剤を注入する。
シチヘンゲ 	半つる性の常緑低木。観賞用にされる。花期は6～11月。自家受粉する。果実は鳥に運ばれる。下部の茎から発根し再生する。	在来植物を駆逐する。アレロパシー作用で在来植物や農作物に被害を及ぼす。	結実前に地下部を含めて抜き取りや掘り取る。伐採した幹や樹皮を除草剤で処理する。

表 4.4 除去対象外来植物の概要

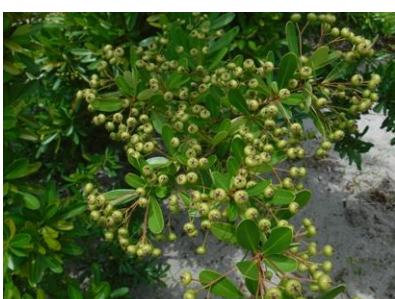
和名	特徴	影響	対策法
オオブタクサ 	一年生草本。花期は 7～10 月。種子に休眠性があり、土壤中で 20 年も生存する。種子を含む土壌が工事などで拡がった。	在来植物を駆逐する。花粉症の原因となる。	開花直前に集中的に抜き取りや刈り取る。生育初期に茎葉処理剤を用いる。
セイタカアワダチソウ 	多年生草本。花期は 8～11 月。種子の寿命は短く、埋土種子は形成しない。長い根茎で繁殖する。	在来植物を駆逐する。	地下茎ごと抜き取るか掘り取る。耕耘、表層土壌の除去など。
シンテッポウユリ 	多年生草本。テッポウユリとタカサゴユリの雑種。花期は 7～11 月。自家受粉で結実し、大量の種子が遠方まで散布される。	在来のユリとの遺伝的攪乱を引き起こす。	開花、結実前に抜き取る。
トキワサンザシ（ピラカンサ） 	常緑低木。園芸、生垣などに利用される。花期は 5～6 月。果実は 10 月に熟し、主に鳥により散布される。根から萌芽して拡がる。	礫河原に特徴的な在来植物と競合し、駆逐する。	実生や小さな個体を抜き取るか掘り取る。大きな個体は伐採して切株を除草剤で処理する。

表 4.5 除去対象外来植物の概要

和名	特徴	影響	対策法
ナンキンハゼ 	落葉高木。ろうそく、家具、薬用などに利用される。雌雄同株。花期は 6～7 月。果実は 10～11 月、種子は水と鳥に運ばれる。	競合する在来植物を駆逐する。再生力が強い。	実生は引き抜く。稚樹や切株は除草剤で処理する。再生したものは継続的に除去する。
フヨウ 	落葉低木。古くから栽培され、公園などに植栽される。花期は 7～10 月。種子は発芽後約 2 年で開花する。	屋久島、種子島などサキシマフヨウの自生地で遺伝的攪乱を引き起こす。	サキシマフヨウの自生地に持ち込まない。開花前に抜き取るか掘り取る。花を除去する。
ナガバギシギシ 	多年生草本。花期は 4～7 月。自家受粉が可能で、種子は大量。土壌中の種子は数年～80 年生存。根茎で繁殖し、根茎から再生する。	在来のノダイオウ、ギシギシ、コギシギシと交雑する。シュウ酸による羊の中毒を引き起こす。	結実前に抜き取るか掘り取る。刈り取り、除草剤散布、他の植物による遮光など。
マンデマ 	一～越年生草本。園芸植物。茎葉は有毛。花期は 4～5 月。	在来植物と競合する。砂浜を安定化、草原化し環境改変する。	結実前に抜き取るか掘り取る。

表 4.6 除去対象外来植物の概要

和名	特徴	影響	対策法
オオフトバムグラ 	一年生草本。花期は7～8月。永続的なシードバンクを形成する可能性がある。礫浜に多く、非砂丘植物。	在来植物と競合し、駆逐する。	結実前に抜き取るか掘り取る。8月中旬までが効果的。乾燥した砂丘砂を吹き付ける。
アメリカネナシカズラ 	つる性の一年生草本。寄生植物。花期は7～10月。種子の生産量は多く、動物の胃の中でも生存する。	海浜植物や園芸植物に寄生し、駆逐する。マメダオシやハマネナシカズラと競合する。	結実前に除去し、種子がある場合は乾燥後、焼却する。
ホシアサガオ 	つる性の一年生草本。花期は7～9月。種子は休眠性があり、低酸素濃度条件下での発芽率が高い。耐陰性がある。	大豆作での被害が甚大で、在来植物とも競合し、駆逐する。	結実前に抜き取るか掘り取る。
アメリカセンダングサ  「日本の帰化植物」(2003年 平凡社)より	一年生草本。花期は8～10月。瘦果は人や動物に付着して運ばれる。種子の生産量が多く、休眠性があり、生存期間は16年に及ぶ。	湿地に生育する在来植物と競合し、駆逐する。水稻などの障害となる。	結実前に抜き取るか掘り取る。

表 4.7 除去対象外来植物の概要

和名	特徴	影響	対策法
ケナシヒメムカシヨモギ  「日本の帰化植物」(2003 年 平凡社) より	一〜越年生草本。茎や葉は無毛〜ほぼ無毛。花期は 9〜11 月。近縁種のヒメムカシヨモギより温度の高い乾いた環境に見られる。	海浜に生育する在来植物と競合し、駆逐する。砂を安定化し、植生遷移を進める。	結実前に抜き取るか掘り取る。
オオオナモミ 	一年生草本。花期は 8〜12 月。主に自家受粉で種子を生産する。埋土種子を形成する。果実は人や動物に付着して運ばれる。	オナモミの遺伝的攪乱を引き起こす。在来植物と競合し、駆逐する。	結実前に抜き取るか掘り取る。除草剤で処理。種子を発芽できない深さ 10cm 以上に埋める。

参考文献：「最新日本の外来生物」(2019 年 一般財団法人自然環境研究センター編著 平凡社発行)

4-3 除去対象種の優先順位

除去対象の外来植物の優先順位は、表 4. 2～7 の各概要に基づき、現地の確認箇所数及び生育状況から表 4. 8 に示す優先順位とした。

表 4. 8 除去対象外来植物の優先順位

No.	和名	生態系 被害防止	確認 箇所数	生育状況	当地での 影響度	除去 優先順位
1	アレチウリ	緊急対策	4	確認したものはその場で引き抜いた。	小	1
2	ナルトサワギク	緊急対策	23	2回の県後援イベントにより減少したが、まだ残存する。	大	1
3	アツバキミガヨラン	重点対策	4	大きい株であるが、増えてはいない。	小	7
4	シナダレスズメガヤ	重点対策	13	拡大傾向が見られる。	大	2
5	コマツヨイグサ	重点対策	多数	広範囲に多くの個体が生育し、除去が困難。	大	5
6	バクヤギク	重点対策	2	2箇所に限定している。観賞用植物。	小	19
7	ウチワサボテン	重点対策	1	1箇所に限定している。観賞用植物。	小	20
8	シチヘンゲ	重点対策	15	拡大傾向が見られる。	大	3
9	オオブタクサ	重点対策	1	1箇所に限定している。	小	15
10	セイタカアワダチソウ	重点対策	9	拡大傾向が見られる。	大	4
11	シンテッポウユリ	その他	2	まだ限定的となっている。	小	10
12	トキワサンザシ	その他	5	生育箇所は限定している。	小	16
13	ナンキンハゼ	その他	3	生育箇所は限定している。	小	17
14	フヨウ	その他	4	拡大傾向は見られるが、他種への脅威は少なく観賞に適している。	小	18
15	ナガバギシギシ	その他	4	沿岸沿いに拡大しているようであった。	大	8
16	マンテマ	その他	1	春に1箇所が見られたのみで少ない。	小	21
17	オオフタバムグラ	その他	多数	広範囲に多くの個体が生育し、除去が困難。	大	6
18	アメリカネナシカズラ	その他	3	まだ限定的となっている。	小	11
19	ホシアサガオ	その他	2	まだ限定的となっている。	小	12
20	アメリカセンダングサ	その他	1	まだ限定的となっている。	小	13
21	ケナシヒメムカシヨモギ	その他	1	まだ限定的となっている。	小	14
22	オオオナモミ	その他	3	現状は少ないが、拡大傾向が見られる。	大	9

4-4 外来植物除去方法

特定外来生物のナルトサワギクとアレチウリの 2 種の防除については優先して実施する必要がある。アレチウリは 7 月の現地確認時につる切りしたところ、9 月調査時にはなくなっていたため、塩分濃度等の現地特性に耐性が弱いものと推測される。9 月調査時には 1 個体を確認したが、その場で抜根処分した。それでも埋土種子が次々と発芽する特性があるため、発芽個体は見つけ次第除去する必要がある。

ナルトサワギクはいかり瀬の主として北東部でいまだに多くの個体が生育していた。根が土中深くまで入り、現地特性に耐性があるようであった。今後は見つけた個体は全て引き抜き除去し、これをある程度の間隔で定期的の実施することが必要である。

シナダレスズメガヤ、シチヘンゲ及びセイタカアワダチソウは群落を形成するほど分布を拡げ、各個体が成長しているため、伐採や抜根作業が必要となる。

コマツヨイグサ及びオオフトバムグラはほぼ全面に広がっているため、引き抜き作業を数年にわたり行う必要がある。結実前の春に鍬やグラウンド整備で使うトンボなどにより土おこしをして根株を取り除く等の案が考えられる。

アツバキミガヨランは成長して幹が太くなっているため、本格的な伐採作業が必要となる。茎の断片から発芽する習性があるため、地下部の根まで掘り起こして全て除去する必要がある。

ナガバギシギシ、オオオナモミなどは生育数が少ないため、見つけ次第除去すれば抑えられると考えられる。

表 4.9 に種別の除去方法案及び実施時期案を示す。対象地域は浜名湖県立自然公園（普通地域）に該当するため、除去方法は除草剤の使用を必要最小限とし、基本的に抜き取り及び掘り取りで行う。除去実施時期は、真夏は熱中症の危険があるため避け、春（5 月）、初夏（6 月～7 月初旬）、秋（10 月）の年 3 回とし、冬にアツバキミガヨランやトキワサンザシなどの木本の掘り取りや伐採が想定される。

いずれにしても早期に全部の外来植物除去は困難で、長期にわたる継続的な関与が必要と考えられる。

表 4.9 除去対象外来植物の除去方法案及び実施時期案

和名	生態系 被害防止	確認 箇所数	場所	除去方法	除去実施 時期
アレチウリ	緊急対策	4	草地に点在	結実前の抜き取り、掘り取り	初夏～夏
ナルトサワギク	緊急対策	23	北側に集中	結実前の抜き取り、掘り取り	春～秋
シナダレスズメガヤ	重点対策	13	中央に主に分布	種子を生産する前に、抜き取りや掘り取り	初夏～夏
シチヘンゲ	重点対策	15	中央西側に主に分布	結実前に地下部を含めて抜き取りや掘り取る。	初夏～夏
セイトカアワダチソウ	重点対策	9	中央西側に主に分布	地下茎ごと抜き取るか掘り取る。	春～秋
コマツヨイグサ	重点対策	多数	全域で東側にやや多い	結実前の抜き取り、掘り取り	春～秋
オオフタバムグラ	その他	多数	全域	結実前の抜き取り、掘り取り	春～初夏
アツバキミガヨラン	重点対策	4	南側に限定的	地下部を含めて抜き取るか掘り取る。	周年
ナガバギシギシ	その他	4	北側に限定的	結実前の抜き取り、掘り取り	春～初夏
オオオナモミ	その他	3	広く点在	結実前の抜き取り、掘り取り	初夏～秋
シンテッポウユリ	その他	2	広く点在	結実前の抜き取り、掘り取り	初夏～秋
アメリカネナシカズラ	その他	3	広く点在	結実前に除去し、種子がある場合は乾燥後、焼却する。	夏～秋
ホシアサガオ	その他	2	北側に点在	結実前の抜き取り、掘り取り	夏～秋
アメリカセンダングサ	その他	1	少数	結実前の抜き取り、掘り取り	夏～秋
ケナシヒメムカシヨモギ	その他	1	少数	結実前の抜き取り、掘り取り	夏～秋
オオブタクサ	重点対策	1	少数	開花直前に抜き取り、刈り取り	初夏～夏
トキワサンザシ	その他	5	東の林周辺に点在	伐採して切株を除草剤で処理する。	周年
ナンキンハゼ	その他	3	東の林周辺に点在	伐採して切株を除草剤で処理する。	春～秋
フヨウ	その他	4	西の林周辺に点在	開花前の抜き取り、掘り取り	初夏～夏
バクヤギク	重点対策	2	東側に少数	地下茎を含めて抜き取りや掘り取り	周年
ウチワサボテン	重点対策	1	中央南側に少数	抜き取りや掘り取り、果実が成長する前に茎に除草剤を注入する。	周年
マンテマ	その他	1	北側に少数	結実前の抜き取り、掘り取り	春